

学校教育目標	かしこく やさしく たくましい子供の育成	経営理念	ミッション：確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 ビジョン：「学んでよかった」「楽しめてよかった」と信頼され期待される学校づくり ○ワクワク感・満足感・達成感が味わえる授業を実践する学校 ○組織として機能する学校 ○お互いの思いを語り合えるコミュニケーション豊かな（働きやすい）学校
--------	----------------------	------	---

評価計画					自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標 値	達成値		達成 度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針	
							10月	2月							
確かな学力	1	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	確かな学力を身に付けさせる	・国語科・算数科を中心に、児童が考える楽しさを実感できる授業づくりに取り組む。	・児童の授業満足度85%以上 「できた」「分かった」「楽しい」	85%	89.3%	88.2%	104%	3	・10月から1.1%減少する結果とはなったが、2月も目標値を3.2%上回る結果となった。 ・3つの授業改善ポイントを教職員で共有し、日々の授業改善に向けて、研究を積み重ねてきた成果が表れた。教師アンケートでも「～を考えてみたい」「なるほど！もっと～してみよう」など児童の前向きな姿が増えてきたと回答があった。 ・授業改善ポイントをすべての教員が意識できていないことや児童の授業満足度を十分高めていないことが課題である。	B	・児童の主体的な学びの実現に、多面的に取り組んでいる。 ・児童は、積極的に授業に臨んでおり、楽しみながら学習することができる。 ・タブレットや電子黒板が有効に活用されている。 ・児童の力は、もっと伸びる。引き続き、授業改善を進めてほしい。	・教員の授業力向上を目指し、3つの授業改善ポイントを意識した授業観察と、暮会後に10分程度の交流を行う。	
			学びの基礎の定着	・学力検査の分析に基づき、PDCAサイクルで取り組む。 ・学習上の課題をもつ児童への個別指導や個別支援の充実を図る。(放課後ルンルン教室・センダンタイム)	・国語科・算数科の全単元末テストの平均点80点以上	80%	国語科 84.3% 算数科 79.0%	国語科 85.4% 算数科 78.3%	107%	3	・2月、国語科では目標値を5.4%上回ることができた。 ・国語科では、学力検査の課題に基づき、授業改善を図ることで、さらなる得点の向上につながった。算数科では、80%の目標値を1.7%下回った。一方、算数科では、学年が上がるほど下学年の学習理解が必要となり、既習内容の理解が不十分なため得点が取れないという原因が明らかになった。 課題の大きい児童への指導の工夫が課題である。	・基礎学力を付け、より向上させていくことを望む。 ・タブレット活用を進める一方で、「紙面に書く」指導も大切である。 ・日本語の指導も強化し、言葉の力をつけたい。 ・算数科は苦手意識をもちやすい教科だ。教材や説明を工夫し、既習内容の理解を進め、児童のつまずきを減らすことが必要だ。 ・低学年の算数科で、教え合いによる「分かった、できた」をめざすとい。	・児童の理解に応じた授業展開を取り入れる。 ・特に、算数科において、課題の大きい児童のつまずきの現状分析を行い、センダンタイムの内容を課題に応じたものにする。 ・学習支援員との連携も密にやり、個別の支援を充実させる。		
豊かな心	2	自他を尊重する豊かな心を育成	規範意識の育成	・生活目標の達成に向けて、指導方法の共有（黒瀬スタンダードの徹底・時を守り 場を清め れを正す）の継承） ・学級会活動、児童会活動を活性化させることにより、児童の意識を高める。(中小あさいつ強化週間等)	・教職員・児童アンケート肯定評価90%以上 ①「時間を守っている」 ②「進んであいさつをしている」 ③「整理整頓ができていて（はきもの、机・椅子、身だしなみ）」	①80% 教職員 90.9% 児童 93.62%	教職員 95.6% 児童 93.9%	120%	117%	4	・「時間を守っている」の項目は、休憩前時間に余裕をもって授業の始まりを迎える準備ができるように指導した。その結果、全体的に授業始まりが厳守できる児童が増え、継続できている。 ・遅刻する児童が固定化している。 ・「進んであいさつをしている」以外は、教職員、児童ともに80%の目標値を達成した。 ・「進んであいさつをしている」の項目は、二極化している。「自分から進んで」の点が十分でないことが課題である。 ・「整理整頓」の項目は、はきものをそろえられなかったりポケットに手を入れたまま歩いたりする等、相手が受ける印象を意識できていないことが多い。	B	・朝のあいさつの様子では、「返事あり」「会釈あり」「反応なし」が3分の1ずつで、状況の変化はない。 ・「自ら進んで」が今一歩だ。地域の中でも二極化している。 ・あいさつの習慣化は忍耐が必要だ。 ・防犯対策としても、あいさつは外でもできるように指導することが大切だ。 ・親、地域の人、先生など、大人が積極的に児童とあいさつをすることが大切だ。 教室や校舎内外がきれいに整理され、環境に配慮されている。 ・学校内には児童が主役であるという雰囲気があり、また、来訪者への気配りを感じる。 ・地域の高齢者の方々を優しく見守ってほしい。	・遅刻する児童の家庭とは個別に連携を図る。 ・「教職員から挨拶」を習慣化するとともに、従来の取組に加えて「学年別あいさつ週間」「児童あいさつリーダー」を設ける。 ・あいさつ週間の回数を評価項目に入れ、達成度を評価する。 ・教職員間でも規範意識や黒瀬スタンダードの周知徹底をし、児童には学級担任からの積極的な指導を行う。 ・整理整頓を意識させるために、下校時に整える習慣をつける。	
				・記録更新の喜びや運動の楽しさを味わわせる体育科授業を実施する。 ・外遊びを積極的に行うことができる環境をつくる。(週1回のロング主体器等)	・新体力テスト昨年度を上回る項目(6) 以上	6	男子 7 女子 5	男子 8 女子 6	133%	100%	3	・新体力テストの項目のうち、男女ともに県平均値と全国平均値を大きく下回っていた「握力」の項目について重点強化を行った。取組としては、朝の会で握力を鍛える「グーバー運動」を毎日実施した。その結果、男子は14.07から16.01と数値が上がった。これは、全国平均値と同じ数値である。また女子も、14.00から16.12と数値が上がった。これは、全国平均値を上回る数値である。この結果から、継続して行った「グーバー運動」には効果があったと考える。	B	・体力増進の要因を十分検証できており、今後も、同様の取組と児童の意識改革に期待する。 ・児童を大事にして見守りながら、一つずつ粘り強く改善している。 ・先生が率先して児童と運動するのがよい。 ・「グーバー運動」など、学校での取組を家庭へも広めてほしい。 ・学習の基礎は体力である。体力増進としての運動を大切にしたい。	・握力を高めるために、引き続き、朝の会でグーバー運動に取り組む。 ・投力を高めるために、準備運動にミニボールでのキャッチボールを取り入れる。
健やかな体	3	調和のとれた運動能力の育成	自分の体力について、主体的に高めようとする態度の育成	・記録更新の喜びや運動の楽しさを味わわせる体育科授業を実施する。 ・外遊びを積極的に行うことができる環境をつくる。(週1回のロング主体器等)	・新体力テスト昨年度を上回る項目(6) 以上	6	男子 7 女子 5	男子 8 女子 6	133%	100%	3	・新体力テストの項目のうち、男女ともに県平均値と全国平均値を大きく下回っていた「握力」の項目について重点強化を行った。取組としては、朝の会で握力を鍛える「グーバー運動」を毎日実施した。その結果、男子は14.07から16.01と数値が上がった。これは、全国平均値と同じ数値である。また女子も、14.00から16.12と数値が上がった。これは、全国平均値を上回る数値である。この結果から、継続して行った「グーバー運動」には効果があったと考える。	B	・体力増進の要因を十分検証できており、今後も、同様の取組と児童の意識改革に期待する。 ・児童を大事にして見守りながら、一つずつ粘り強く改善している。 ・先生が率先して児童と運動するのがよい。 ・「グーバー運動」など、学校での取組を家庭へも広めてほしい。 ・学習の基礎は体力である。体力増進としての運動を大切にしたい。	・握力を高めるために、引き続き、朝の会でグーバー運動に取り組む。 ・投力を高めるために、準備運動にミニボールでのキャッチボールを取り入れる。
				・CS連絡会を実施し、体験活動の締密に打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより)する。	・児童アンケート肯定評価85%以上 「運動することが好き」	85%	88.00%	90.30%	106%	3	・前回よりも目標値が上がり、「運動することが好き」と肯定的評価をする児童85%以上の目標を達成することができた。ロング屋体験や外で遊ぶDAYの実施により、積極的に外体を動かす姿が多く見られた。また、教員が児童と一緒に体を動かす姿も見られた。 ・本年度は、体育科授業改善について研修を行うことができなかった。	・よい取組だ。 ・「運動は楽しい」ことを体験させることだ。 ・放課後にもっと時間を作てほしい。		・運動することの楽しさを、教員も一緒にによって発信していく。具体的には、体育科の授業における導入を工夫したり、休憩時間に一緒に体を動かす時間を作ったりする。	
信頼される学校	4	学校・地域・保護者が一体となって子供を育てる学校づくり	コミュニティ・スクールの推進	・CS連絡会を実施し、体験活動の締密に打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより)する。	①CS連絡会を月2回実施する。	①平均 月2回	①平均 月2回	①平均 月2回	①100%	3	・後期は、スポーツフェスティバル、年中黒瀬ふれあい農業祭、ボランティアさん感謝の会、令和7年度の教育活動に関わり、各1～3回のCS連絡会を実施した。地域学校協働活動推進員と参加者や活動の趣旨に沿った内容及び日程の確認を行った。昨年度に比べ、関わる児童や招待する地域の方が増えた活動があり、また、児童の自主的な取組による交流も実現できた。 ・児童の参画による活動が少ない。	A	・4年生の福祉体験報告会など、地域の人や施設との積極的な取組を高く評価する。 ・スポーツフェスティバルでの講師招請は好機であり、学びを日頃の指導に生かしてもらいたい。 ・今後、中黒瀬(北・東・西)社会福祉協議会も中黒瀬住民自治協議会に相談し、新たな地域活動の一助をしてくれる。 ・中黒瀬住民自治協議会として、今後も、地域学校協働活動に協力していく。 ・地域の人のための協力を取り入れた学習をこれからも進めてほしい。 ・人との心温まる関わりが大切である。	・各学年でCS連絡会と連携を図るために、生活科や総合的な学習の時間などにおける、地域教材(人・もの・こと)との関わりを年間計画に明確に反映させる。 ・保護者に、学習支援ボランティアまたは行事参加者などとして、地域学校協働活動を体験してもらう機会を増やす。	
				・CS連絡会を実施し、体験活動の締密に打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより)する。	②毎月、学校だより、CSだより、ホームページ等で学校・学年の行事や活動の様子を伝える。	②月1回	②月1回	②月1回	②100%	3	・毎月の学校だよりやCSだより、ホームページで地域学校協働活動や学習の様子を紹介した。後期は、本校で育てたい資質・能力に勉強しながら、活動の意義や児童の様子を伝える学年によりや学年の年齢が違った。 ・PTA活動の発信の機会がない(少ない)。		・現在の取組を継続するのがよい。 ・情報発信し続け、知ってもらう努力が大切だ。 ・提供される学校だよりQRコードを載せることで、HPに誘導してはどうか。	・「CSの一員」の啓発のため、地域学校協働活動の活動や学習の具体、PTA活動の様子を情報発信をする。	
働き方改革の推進		教職員が健康で、何でも相談できる、風通しのよい職場づくり	・学年部を有効活用する。(情報共有、交換授業) ・放課後時間の確保をする。(会議の時間短縮、業務改善の推進等)	・教職員アンケート肯定評価85% 「本校の職場環境は何でも相談できる、風通しのよい雰囲気がある」	85%	92%	92%	108%	3	・学年主任を中心に学年部内で連携を密にするとともに、管理職への報告・相談・連絡も迅速に行い、細やかな事項に渡って学校運営ができた。 ・見直しをもち、業務を行うことで研修等も充実し、有効に時間を使うことができた。 ・会議資料を事前に練ることで、会議の内容を精選することができ、時間短縮につながった。 ・ICTの活用を一層進め、情報共有の準備が整っている。 ・特に、年度初めや年度末、学期末は、放課後時間の確保が困難である。	A	・地域行事などでも先生方の協力を得ているが、いつも遅くまで勤務している様子があり、しっかりと休んでいるの心配だ。 ・児童に十分に関わってほしいが、先生方の健康も必要であり、働き方改革をさらに進めてほしい。 ・「明るく・楽しく・元気に」をモットーとした職場づくりをしていくのがよい。	・各学年の授業時数及び特別活動の内容を見直し、放課後時間の確保と研修や学年・分掌業務の充実を図る。 ・地域で育てる「育つ」児童の力を見直し、放課後時間の地域の参画を検討する。		